

187  
5

信濃名勝地誌

山田勇雄編

全

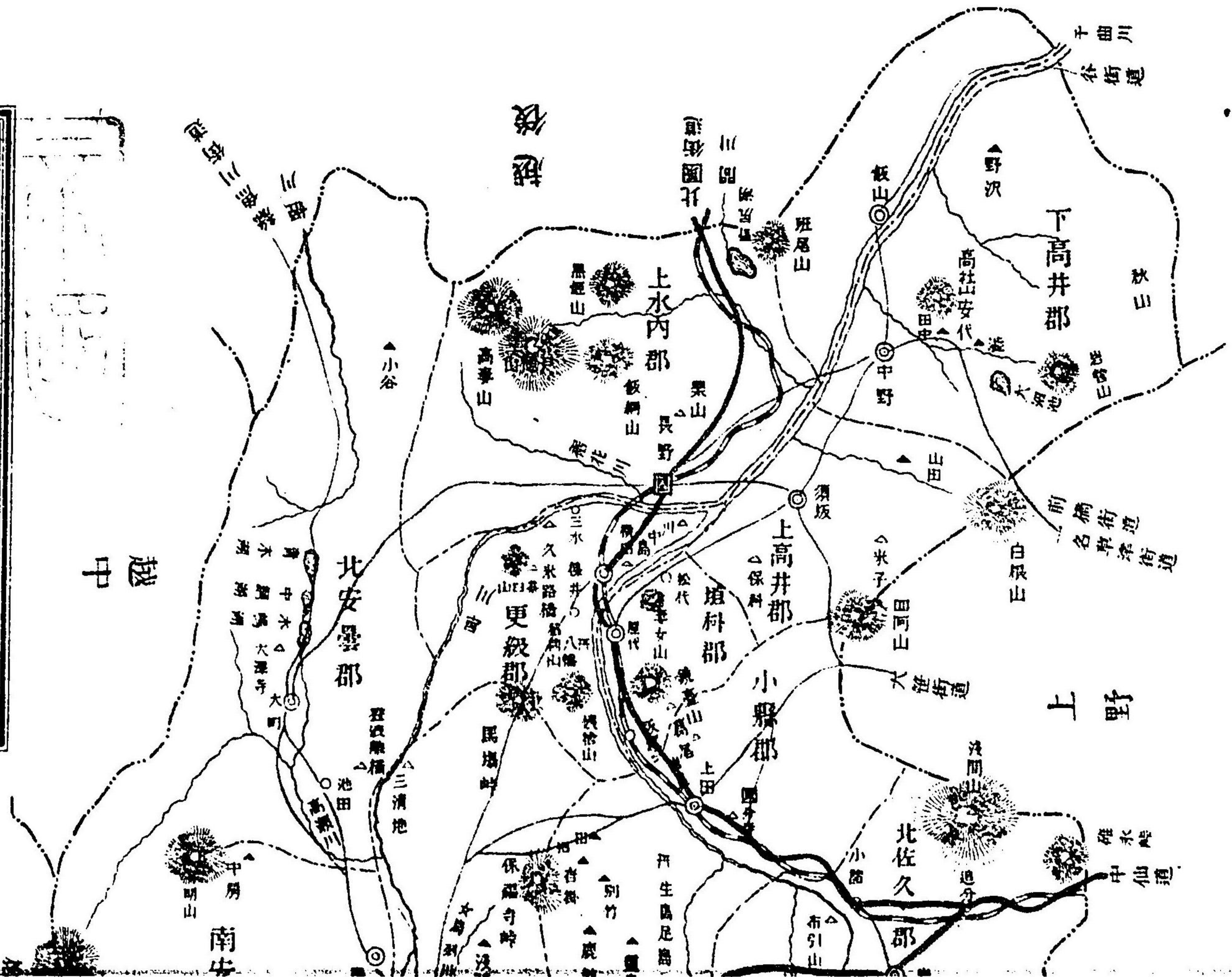


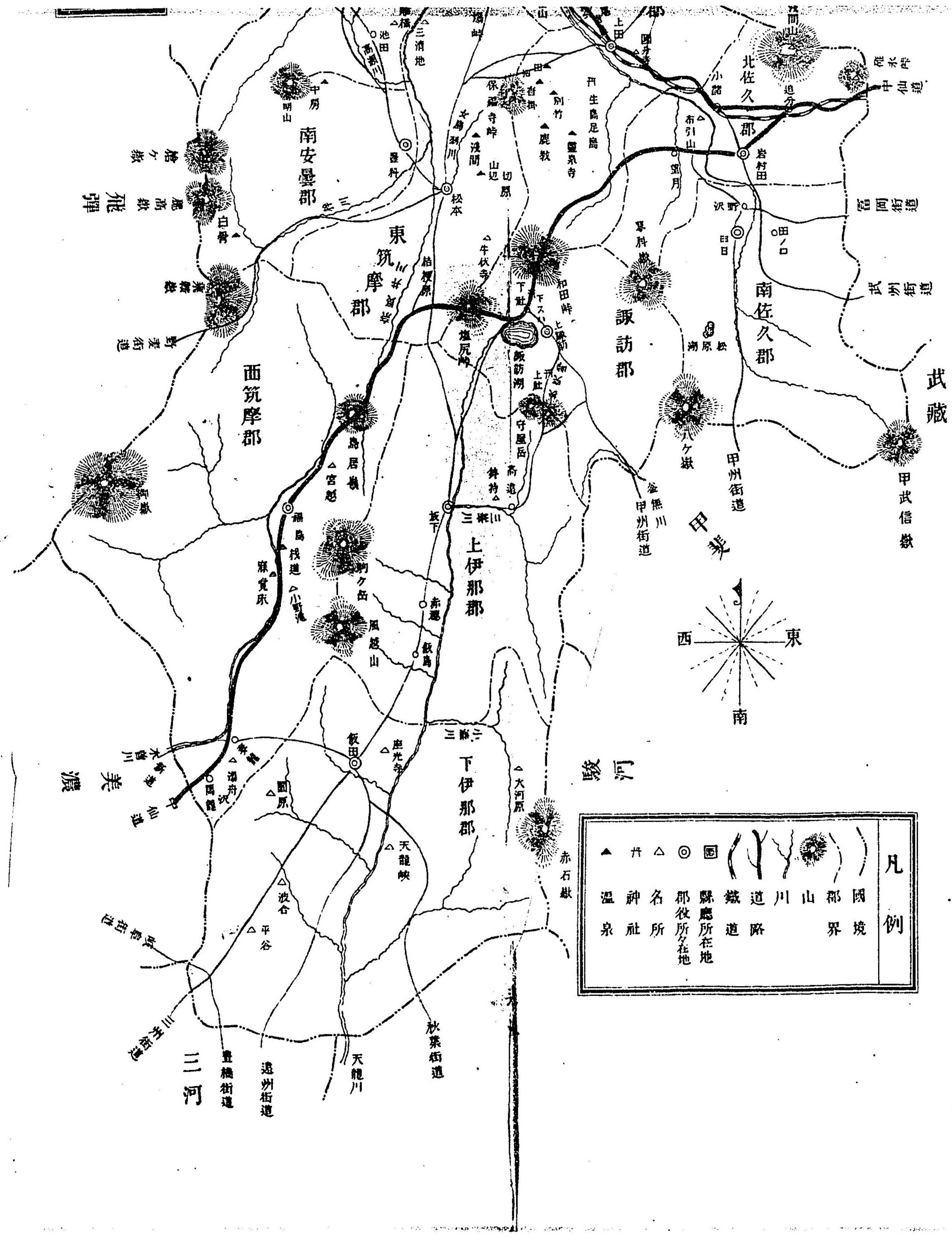
大和田大人題詞  
山口勇雄君編輯

# 信濃名勝地誌

東京書肆 松陽堂梓

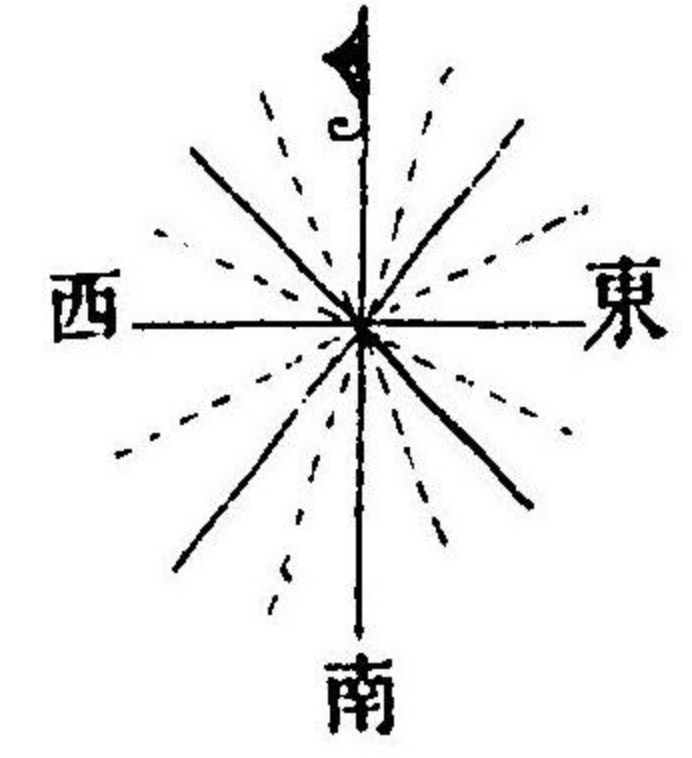
六十万  
分の一  
**信濃國全圖**





▲	△	◎	⊗	(Y)	⊃	凡
温泉	神社	名所	郡役所所在地	縣廳所在地	鐵道	國境
				道	川	郡界
				路	山	境

凡例



飛騨

南安曇郡

東筑摩郡

面筑摩郡

上伊那郡

下伊那郡

諏訪郡

南佐久郡

北佐久郡

武藏

甲武信

甲斐

駿河

三河

濃美

しつぷりする。

買ちあつた。

いふかひのふ

本さのちあつた

いふかひのふ

松平のちあつた

松平

東京書肆  
本公陽堂  
信濃名勝誌

序

我信濃ノ地名勝鮮シトセズ而シテ其誌亦乏シカラズ然レ共童蒙ヲシテ讀マシムベキモノニ至テハ未ダ嘗テ良好ノ書アルヲ聞カズ山口象陽居士茲ニ見ルアリ暇アルコトニ躬ヲ名邑ヲ訪ヒ勝地ニ遊ビテ其景狀ヲ記シ來歴ヲ探リ又教育ノ理ニ本ツキ幼童ノ心力ヲ察シテ以テ信濃名勝誌ヲ作ル其蒙ヲ啓クニ適スル

ヤ知ルベシ抑モ此著ハ童蒙ヲシテ獨リ  
信山ノ名勝ヲ知ラシムルノミナラズ又  
其郷國ヲ愛スルノ念ヲ涵養スルニ資ス  
ルノ大ナルヲ信ズ因テ一言ヲ卷首ニ録  
ス

正木直太郎識

序

みすゞかる信濃の國ハ山高ク水清きが上り往古  
より國のひらけもおそからずくさぐさの物語ハ  
水莖の跡にも多かりまして近き頃皇國の産物の  
中にも外國人のもてはやすなる生絲の業ハいふ  
も更なり萬の事日に月に進みゆくさまハ人よく  
知りたる事なるべしたのれ性遊歴とこのみわき  
て當國ハ概ね足跡とつけたる處とて見聞せるこ  
とも少おからず依りて今當國の地理を經とまし

歴史と緯となし茲に一巻の誌をものしぬ聊か斯の道のため盡すあらんと思へばありさしいへ素より大方の需よ應ぜんとの希望よあらで初學の徒の階梯とあさんとの意に過ぎざるのみ冀く博雅の士幸に其足らざらんと補ひ誤らんを正し以て其目的を達せしめられよあは此誌を編むにあたり我友某君の一方ならぬ補助を與へられしことを謝するよなむ

明治三十年十月

山口勇雄とるす

# 信濃名勝地誌

## 目次

### 總論

#### (一)河中島地方

上水内郡

長野 善光寺の圖 藥山 戸隠山

野尻湖 久米路橋

下水内郡

飯山

下高井郡



中野 澁田中野澤ノ温泉 秋山  
上高井郡

須坂 米子の瀧 山田の温泉  
保科観音

埴科郡

松代 海津城の圖 妻女山 屋代

葛尾城址 岩鼻

更級郡

姨捨山 八幡社 篠ノ井 横田河原

河中島古戰場

### 佐久小縣地方

小縣郡

上田 國分寺 生島足島神社

別所温泉

北佐久郡

小諸 布引山 淺間山 同上圖

碓氷峠 岩村田 望月牧

南佐久郡

白田 田ノ口 松原湖

### 諏訪地方

諏訪郡

諏訪湖 同上圖 上諏訪 諏訪神社

(四) 伊那地方

上伊那郡

高遠 鉾持棧道 坂下 赤穂

下伊那郡

飯田 今宮公園 元善光寺 園原

大河原 混合 平谷 天龍峽 同上圖

(五) 木曾地方

西筑摩郡

湯舟澤 小野の瀧 同上圖 寢覺床

木曾の棧道 福島 御嶽 宮ノ越

鳥居峠 駒ヶ嶽

(六) 松本地方

東筑摩郡

松本 松本城圖 淺間山邊の温泉

桔梗原 牛伏寺 三清地

南安曇郡

乘鞍嶽 有明山 白骨中房の温泉

豊科

北安曇郡

大町 大澤寺 三湖 小谷の温泉

登波離橋

附録目録

長野縣管内統計表 明々三十年十二月三十日現在  
 (長野市ニ關スル統計ハ別ニナキヲ以テ)  
 (上水内郡ノ中ニアリト知ルベシ)

- 一、沿市郡一覽表
- 二、山嶽表
- 三、河川表
- 四、神社表
- 五、寺院表
- 六、鑛泉表
- 七、農産表
- 八、蠶業表
- 九、製造及工業產物表
- 十、物産輸出入表
- 十一、物産輸出入表
- 十二、物産輸出入表

目次終

信濃名勝地誌

山口 勇雄編

總論

我信濃國ハ東出道一あり、東西四十三里、南北五十四里、人口一百万あり、日本帝國中の大國あり、東ハ上野、武蔵、南ハ甲斐、駿河、遠江、三河、西ハ美濃、飛驒、越中、北ハ越後國ハ隣る、國內ハ高山峻嶺相重かり、地勢一般ハ高峻なれば、此等の諸山より發する水ハ次第ハ相聚まりて、數多の大河とあり、隣國ハ流れ出で、終一海ニ注ぐ、されは山川の形勢ハよきて、自然ハ六つの大區劃をかせり、河、中島地方、佐久小縣地方、諏訪地方、伊那地方、木曾地方、松本地方これあり、余ハ、今より諸子と共に、順路ハよりて、此等の諸

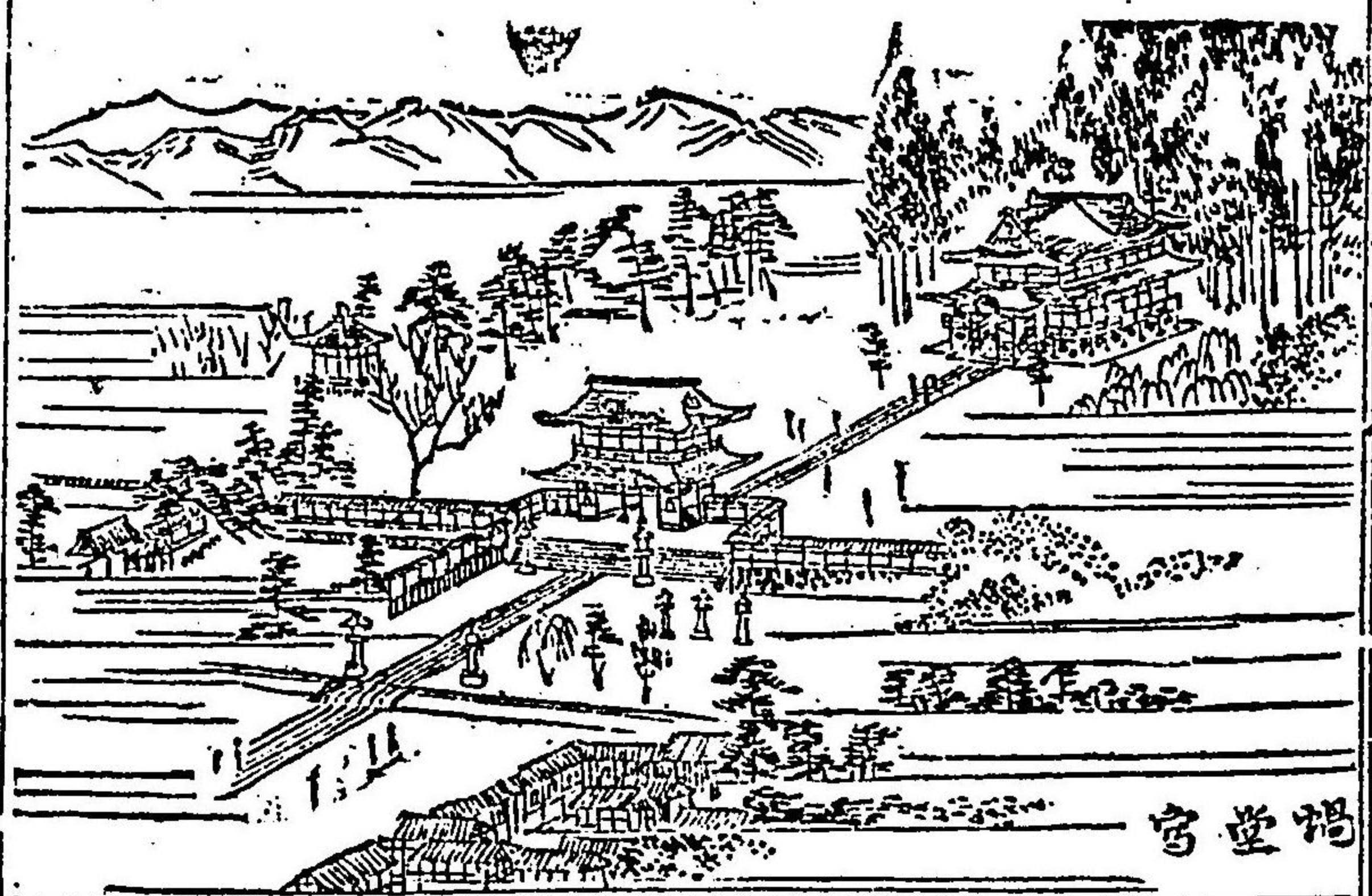
地方を巡り、名邑勝區を探らんとす。

### (一) 河中島地方

河中島地方は、一は善光寺平と稱し、最も北よあきて、最も廣き平野にして、東西三里、南北十數里あり、千曲川と犀川との合流する所よあきて、末流東北方よ貫きて、越後よ入る、西北の二方よは飯繩、黒姫、高妻、乙妻、斑尾の諸山峙ち、東南の二方よは四阿、白根、岩菅、高社の諸山ありて、上野、越後の界よ續く、中に埴科、更級、上水内、下水内、上高井、下高井の六郡あり、信越鉄道は、佐久の平より來り、埴科、更級、上水内を貫きて、越後の直江津よ達す。

#### 上水内郡

長野 長野市は、信濃國第一の大都會よして、縣廳のある所よあ



善光寺の圖

東京を距る六十里、人口三万二千、犀川の北岸大峯山の麓よあり、北國街道よ當り、信越鉄道の  
大停車場ありて、物貨輻湊し、商業盛かり、縣會議事院、地方裁判所、區裁判所、市役所、郡役所、尋常師範學校、尋常中學校、高等女學校、監獄署等あり、此地昔ハ善光寺町と稱し、又佛都の名あり、蓋有名かる善光寺のあるよよれ  
善光寺は、今を距るよ千三百四十五年以前、欽明天皇の御宇、

今の朝鮮の内ありし百濟國より獻せし阿彌陀佛の像を、其後凡二十餘年、皇極天皇の御宇、伊那郡の人、本多善光あるもの、之を獲て、伊那郡座光寺村に置き、其後又堂宇を建て、此處に移し、に起れりといふ、爾後戰國の頃今を距るに及びて、武田信玄之を甲斐の甲府に移し、新善光寺を建て、武田氏亡びて、織田氏之を美濃の岐阜に移し、徳川氏又之を遠江の濱松に移し、更し甲府に復せしが、豊臣氏又之を京都の方廣寺に迎へ、他國に流寓すること、前後四十余年に及び、慶長三年八月に至りて、始めて故に復せり、今を距ること二百九十八年以前あり、其無比の靈佛なるを以て四方より來り拜するもの、常に絶えず、堂宇の焼くること屢々として、現在のもの、元祿年間今を距るに及びて、徳川幕府より、松代藩主に命じて、建築せしめしものあり、東西

十五間、南北二十九間半、高さ十丈あり、宏壯無比の大伽藍あり、七年毎に盛大なる開帳を行ふ、今を距る五十一年前、弘化四年に、恰も其年に當りければ、遠近より來り集るもの、甚だ多かりし、三月二十四日、大地震あり、家倒れ、火起り、死するもの二千四百七十四人、内旅人千二百九人あり、本堂は幸として倒れざりき、抑も、長野市繁盛の基は、善光寺にあり、明治四年、諸藩を廢して、縣廳を置きしより、其進歩非常にして、今は國中第一の地となれり、善光寺の東にある丘陵を城山といふ、頂に健御名方富命彦神別の神社あり、縣社あり、今上天皇陛下、御巡幸の際、御休息あらせられし處として、善光寺平、一眸の中は集り、眺望絶佳なり、城山館といへる公會場、井に測候所あり、

往生寺の西方少許あり、

薬山 長野の北方山中に入ること一里淺川村に薬山あり、岩壁高く天を摩して、刀もて削れるが如く、下は淺川の流を望む、其が中腹ある巖窟より、木を架出して、上は一堂を造り、少彦名神の石像を祭る、欄干によりて下を臨めば、目將は眩せんとす、人入るとき動搖するを以て、ブロン堂薬師の名あり、河邊は石油の湧出するところあり、

くしのかみすくな彦名のつくりけん薬の山はくすし

きろかも

荒木田久老

戸隠山 長野市より、大峯山の溪間に入り、西北行して飯繩山麓ある、飯繩原を過ぎ、四里餘にして、戸隠中社に達す、道路廣濶にして、險峻をらず、寶光社、奥社ありて、鼎足の形をかせり、奥社の

中社を距ること三十丁、戸隠山の中腹にあり、手力雄命を祭る、國幣小社あり、社殿雅潔、老樹鬱々として、山色深遠なり、戸隠山の奥社の背は峙ち、巉巖兀々として、三十三窟あり、各其形貌は随ひ、百間長屋、蟻の塔渡り、獅子岩等の名あり、是を表山と稱す、裏山の表山に連りて、北は延び、百丈瀧、千丈瀧、水晶塔、兩界岩等の奇あり、其最高の巖は、即ち高妻山にして、海面よりの高さ、八千三十六尺あり、險しき所に至れば、岩角を踏み、樹枝に攀ち、鉄鎖により、辛うじて歩む、夏季登山するもの多し、近傍は荒倉山あり、天延中百九十年、平維茂が平けし鬼女紅葉の棲みし所と云ふ、此地方を戸隠山中と總稱す、蕎麥一名あり、神代櫻の、戸隠路邊、芋井村にあり、長野を距ること一里許、稀有の古櫻樹にして、根の周圍三丈餘あり、

野尻湖 長野町より信越鐵道より六里を距る柏原驛より下車し、北國街道に沿ひて進めば、一里許りして野尻湖に至るべし、此湖の一は芙蓉湖と稱し、班尾山麓、信濃尻村にあり、周囲三里十七町、其狀瓢の如し、湖中の小島を琵琶島といふ、辨才天を祭る、風光頗る佳しして、納涼に適せり、湖中の樅ヶ崎は、昔永祿七年三三三上杉謙信の臣、宇佐美定行、謙信の姉の夫、長尾政景の謀叛の心あるを見、欺き招きて、舟に乗じ、湖上に出で、共溺死せし所ありと云ふ、此地方氷蕎麥を産す、

久米路橋 長野の西南、犀川の上流四里許、水内村より久米路橋あり、又水内橋といふ、古へより著名あり、兩岸の岩壁、突兀として相迫る所、架す、長さ二十一間、高さ十餘間、近時まで、北岸より近く一屈曲をかして、頗る奇觀かりき、橋上より臨めば、碧流激

して、岩を噛みて走る、

うもれ木の中、蟲はむといふ、めれば久米路の橋の心して行け

讀人不知

近傍に不動瀧、龍宮岩等あり、橋の西端に、勝海舟翁の長歌を刻せる碑あり、其歌曰く、

みすゞかる信濃の國の日の本のくぬちのうちよいやたかき國よしあれハ峯聳え山重ありて久方の雲井に近く飛ぶ鳥もつばさをたわみあらがねのいはふみ行くけものすら走るをかやみ谷川にくるめき流れ岸高くけづれるが如そはたちて渡るすべかみ路たえし處ろ多かるそが中より水内の橋の神業よなれりと聞けり百傳ふ岩根を床よいとくしくかけし橋りも萬代もゆきとたえず安らかな踏みか

らしつゝ諸人のゆきゝかよひて種々の世をはへぬらしい  
や高きこのみめぐみを知る人も知らぬもなべて神業とた  
へて仰ぐかけはしぞこれ、

### 下水内郡

飯山 長野を距ること八里、千曲川の西岸に飯山町あり、各街道  
に當る、人口七千餘、郡役所區裁判所あり、飯山城の町の東北端  
にあり、昔天正五年三百年前上杉謙信自ら築き、家臣をして守ら  
しめし所にして、其後屢々城主の變遷あり、享保二年百八十年に至  
りて、本多氏之を領し、二万石を食む、維新の際、賊徒古屋作左衛  
門等、越後より侵入して、此城を攻めしが、松代藩兵の爲めに撃  
ち退けられたり、冬期の積雪丈余に及び、信濃の最北にして、最

も寒冷の都會あり、

### 下高井郡

中野 飯山より千曲川の東岸に渡り、谷街道を南に進むこと三  
里にして、中野町に至るべし、戦國の頃、高梨氏の居城にして、今  
かは南方山上に城址を存す、徳川氏に至りて、陣營を置き、維新  
の初に至りて、中野縣を置きし所あり、人口六千、郡役所あり、  
稍繁盛あり、

澁田中野澤の温泉 上下高井郡の山中には温泉多く出づ、中野  
町より夜間瀬川又屋川に沿ひて、谿中に入ること一里半にして、  
平穩村に澁田中等の温泉あり、長野を距ること七里餘、道  
路の便あるを以て、浴客常に絶えず、澁よりかは谿中に入るこ



と里許よしして、地獄谷あり、蒸氣岩孔より噴出し、濛々として天を蔽ひ、霧々として雷の如し、又澁より沓野を經、草津街道よし沿ひて上れば、里餘よしして、輪嘴の瀧、琵琶池等あり、瀧は道の右よしして、遙よし谷底よしあり、高さ四十丈の大瀑なり、池は其形を以て名づく、風景閑雅あり、尙ほ山中よし進めば、大沼池あり、野澤の温泉あり、木島平の山中にあぞ、創傷よし特效あり、秋山 東方深谷中よし、秋山と稱する別天地あり、昔し平氏の餘黨の窟匿せしところよしして、風俗言語大よし他よし異あぞ、

上高井郡

須坂 中野町より延徳の廣野を過ぎ、南行をること三里よしして、須坂町よし達す、堀氏一万石の城市よしして、今郡役所あり、人口五

千、製絲の業頗る盛よしして、烟突林の如く立つ、西方よし一丘あり、臥龍山と云ふ、一の勝地あり、

蓑堂 觀音あり、南方一里にあり、奇巖峙ちて、眺望佳あり、

米子の瀧 蓑堂より市川の流よし沿ひ、谿間を南行すること三里餘よしして、米子の瀧あり、四阿山より發するの谿流、二條の瀑布とかりて奔下す、相距ること凡一町、左を權現瀧と云ひ、高さ六十丈、右を不動瀧と云ひ、高さ九十丈あり、之を仰けは、恰も銀河の九天より落ち來るが如く、其聲山谷よし響きて、凄まじし、瀧の下流數町よし不動堂あり、不動堂より又溪流よし沿ひ、亂石を傳ひて登ること三里よしして、四阿山の巔よし達す、上野の國境よし峙ち、高さ八千九百七尺あり、絶頂よし二社あぞ、上州宮、信州宮といふ、深谷の底幽かよし上野の村落を望む、又瀧の邊よし硫黄坑あり、頗

る良質のものを産し、近時盛に採掘せり、

山田の温泉 須坂の東方山中三里、白根山麓に山田温泉あり、白

根山の頂にあり、湯池より硫黄を産す、

保科観音 須坂町より谷街道に出で、南に往くこと二里餘にして

て左折し、山中に入ること又一里許にして、保科観音あり、阿彌

陀山清水寺と稱す、今を距る一千〇九十二年、平城天皇の大

同元年、坂上田村麿の創建せし所にして、宏大なる伽藍ありし

が、今に荒廢して、僅かに、奥院、中院、三重塔を存するのみ、

埴科郡

松代 須坂より西南行すること四里半にして、松代町に達す、長

野を距ること三里にあり、松代城は、古へ海津城と稱し、武田信

玄の臣、山本晴行の築きし所にして、市街の北にあり、千曲川に

枕み、河中島の戦に關して著名あり、後、洪水の害を避けんが爲

め、河道を改めしかば、今に遙に西方を流る、後、上杉景勝に屬し、

徳川氏に及びて、森松平等を経て、元和八年二百七十五年、眞田信之、上

田より移りて、十萬石を食み、信州第一の大藩として、頗る繁盛

の城市ありしが、廢藩の後、交通の不便なるが爲め、漸く衰ふ、人

口八千餘あり、製絲養魚の業盛あり、有名なる佐久間象山は、此

地の人あり、博學にして、砲術に精しく、徳川氏の末年、盛に開港

の説を唱ひ、後、京都に趣き、會津藩士と往來して、大に謀ること

ろあらんとし、人の爲に殺さる、

白鳥山は、市街の南方にありて、藩祖を祭るの社あり、壯麗あり

聞く、駿河の久能の社を模したるものありと、象山は西南端に

古海津  
城之圖

三曲十

本丸  
東西四十一間  
南北五十一間

本丸

本丸

五十七間

五十六間半

三之丸

三之丸

殿町

馬家町

厩代町

飯沼須坂寺入口

新井町

寺尾口上

東  
南

中町

飯沼町

寺

宮

伊勢町

寺町

御所口上

関屋入口

二十六  
本丸  
三曲十

時てる小丘にして、眺望絶佳を以て稱せらる。清瀧の東方半里あり、水量大からずと雖も、岩貌頗る奇幻あり。

妻女山 松代より、谷街道を西行すること半里にして、妻女山あり、清野村あり、河中島の戦、上杉謙信此に陣營を張り、海津城に炊烟の起るを望みて、夜密に山を下り、武田の軍を逆襲せし所あり、北方河中島を隔て、長野に對し、又信玄の營所ありし茶臼山に面す、眺望頗る佳かり、招魂社あり、明治戊辰の役、松代藩士の戦死せしものを祭る。

つまめ山つまを忘れて武夫が鎧かたしき幾夜ねいけむ

海上嵐

屋代 松代より、西行すること二里にして、屋代町に至り、北國街道に合す、郡役所あり、東方の山を一重山といひ、有名かり。

り。

花のかは名のみかりけり一重山八重にかさなる峯の白雲 中務卿

葛尾城址 屋代町の南、北國街道を行くこと三里にして、坂城村あり、東北の山上に、葛尾の城址あり、戦國の頃、村上義清、威を信濃に震ひし時、據りし所あり。

岩鼻 坂城より、又南行すること一里余にして、千曲の兩岸漸く狭き處に、岩鼻あり、岩壁高く聳えて、將に倒れんとし、道路僅に其下を通ず、頗る風景に富み、夏の螢、秋の紅葉、皆有名あり。

岩鼻やこゝも一人月の友 芭蕉

更級郡

姨捨山 姨捨山は、屋代を距ること一里半、千曲川の西にあり、冠着山、一は更科山の稱あり、觀月の勝地あり、麓の丘は庵あり、放光院長樂寺と號す、堂名を滿月殿と云ふ、姨石と名つくる巨巖、時ち、傍は老桂樹あり、田毎の月の名あり、北方を望めば、河中島の平野遠く亘り、千曲の流其中を貫き、風景頗る佳あり、東埴科郡の鏡臺山は對す、仲秋の夜、月其頃に出づ、四方よそ來を賞するもの甚た多し、姨捨の月は、古昔よそ著名にして、古歌多し、我心あぐさめかねつ、更級や姨捨山は照る月を見て

讀人不知

月見れば衣手さむし更級や姨捨山の峯の秋風

鎌倉右大臣

さらしかや姨捨山の高根よそ嵐を分て出る月影

佛や姨一人泣く月の友

芭蕉 家隆

八幡社 姨捨山の北半里にして、八幡の社あり、武水別命を祭り、縣社に屬す、境内老樹鬱鬱として、社殿壯麗なり、毎年十二月十日より十四日迄、大祭を行ふ、近傍の村落より、異様の扮装をなし、行列して、其雜沓非常あり、之を遷祭といふ、三百餘年の間絶えず、之より北半里、稻荷山町の商業稍盛あり、篠ノ井 屋代町の北一里、千曲川の北岸は篠ノ井あり、鹽崎村に屬す、郡役所のある所なり、近傍は康樂寺、長谷寺の古刹あり、横田河原 塩崎より、千曲川に沿ひて下ること半里あり、今を距る七百十六年前、源平の頃、木曾義仲、城長茂と戦ひて、之を破りし所あり、

河中島古戰場 更級郡の平野に、往昔武田上杉二氏の激戦せし  
 所にして、有名なる古戰場あり、八幡原、典厩寺等、當時の遺跡あり、  
 當時、田圃開けを、人烟稀かりしが、徳川氏の初め、松代侯松平  
 忠輝の臣、花井主水、地勢を視、犀川の上流、犀口と稱する所より、  
 三個の溝渠を通じて、之を千曲川に注ぎしかば、忽ち水利を得  
 て、田圃開け、今ハ人家相望むに至れり、

鞭聲肅々夜過河  
 遺恨十年磨一劍

曉見千兵擁大牙  
 流星光底逸長蛇

頼山陽

分兵謀已泄 亦不發探騎 卒然失爪牙 無奈見耶易  
 違衆納仇女 用茲終得君 箕陣報平昔 今日只荒墳  
 敵情得於人 明鑒託炊煙 不進擊半渡 至今惜武仙

於菟知詳證 甲兵殲河側 河霧懷當日 徘徊情未極  
 佐久間象山

(二) 佐久小縣地方

河中島北方より、千曲川に沿ひて上れば、佐久小縣地方に出づ、千  
 曲河源のある所あり、廣さ松本地方に次けり、東北に碓氷峠、淺間  
 山あり、南に八ヶ嶽あり、西に藜科嶽、和田峠あり、原野多くして、牛  
 馬を牧す、信越鐵道の碓氷峠を貫きて、上野より來り、小諸上田を  
 過ぎて、河中島地方に達す、

小縣郡

上田 松代より、千曲川に沿ひて、北國街道を上ること八里よし

て、上田町あり、上田城はもと眞田氏の祖先ある、海野氏の築きて、居りし所にして、千曲川の深淵に突出し、尾ヶ淵の城と稱せり、後、村上義清に敗られて、東方の山中に入る、關ヶ原の役起るや、眞田昌幸、子、幸村と之に據り、徳川秀忠の軍を防ぎて、通せざらしむること數日、遂に之を捨て、西上せしめ、眞田信之の松代に移るや、仙石氏之に居り、次で松平氏之を領し、五万三千石を食む、城址に今公園とあり、藩祖を祭れる松平神社あり、人口二万一千、商業繁盛にして、郡役所、區裁判所、尋常中學校、蠶業學校、監獄署等あり、信州第三の都會あり、上田原に、村上義清、武田信玄と戦ひて大敗せし所あり、此地方、蠶卵紙、絹織物を以て名あり、赤松小三郎に、此地の人にして、佐久間象山に從ひて學び、西洋兵式の師とあり、後、京都に於て殺さる。

**國分寺** 上田の東南二十五丁に、國分寺あり、三重の古塔を存す、昔、聖武天皇の諸國に令して、國分寺を造らしめられし時の建築にして、方三間、尚五丈八尺あり、今を距ること千百五十餘年あり、初めは壯大なる堂宇、立列びしが、屢々兵燹に罹りて、今たゞ僅かに之を存するのみ、近傍の田圃中、往々古瓦を獲ることありと云ふ、行基作の大茶碗、及び稱徳天皇の諸寺に分附し給へる、百萬塔等を藏す、毎年一月八日、參詣する者多し、八日堂の薬師と稱す。

**生島足島神社** 上田の南方二里、東鹽田村に生島足島神社あり、有名なる古社にして、縣社に屬す。

**別所温泉** 上田の西南三里に、別所の温泉あり、浴客多し、中に石湯あるものあり、岩石を穿ちて、浴槽とす、北向、觀音堂あり、市

街の西端ある安樂寺アノクは、四重八面の古塔あり、其他此地方に田澤沓掛鹿教カケカ、靈泉寺等の温泉相連ある。

北佐久郡

小諸 上田よを、かは千曲川に沿ひて、上ること五里にして、小諸町あり、淺間山の麓に位す、市街の西南隅に、山本晴行等の築きし城址あり、鍋蓋城ナベフタ或は穴城アナと稱し、要害堅固を以て有名あり、徳川氏の時に至り、屢々城主の交迭を経て、元祿十五年百九十年、牧野氏之に移り、一万五千石を領す、城趾に、今懷古園ナニノコと稱し、牧野神社あり、藩祖を祭る、人口八千、商業盛なり、布引山 小諸を距ること、西方一里半にして、千曲川の南岸に、布引山釋尊寺あり、僧行基の開きし所にして、懸崖空に聳え、奇幻



極をかし、岩面は白條ありて、恰も布を引けるに似たり、岩窟に沿ひて、堂を作り、観音を安置す、郡内有名の勝地あり、淺間山 淺間山は、上野に跨り、本邦著名の火山にして、高さ八千二百三十尺、頂常に白煙を吐く、火口の周圍約十二町、深さ約一百間あり、數々大噴火をかし、害をなすこと少からず、天明三年百十三の時の如き灰を降らし、熱泥を流し



上野の諸村を害し、死するもの二千に及びたりといふ、麓は原野多く、追分原、雲場原、馬杭原、御牧原等あり、夏季登山するもの多し、登山するは二徑あり、一は小諸より谿谷中に入り、四里餘にして、頂に達し、一は小諸の東三里ある、追分驛より、追分原を過ぎ、三里餘にして頂に達す、小諸よりするもの、最も容易あり、山頂より眺望すれば、南は富士山あり、東北は上野の諸山あり、西は飛驒、越中の界ある連山を見、塵俗の氣、自ら散す、眞樂寺、其麓鹽野村あり、淺間山別當と唱ひ、宏壯ある寺院あり、塩野の官林の著名あり、

雲はれぬ淺間の山のあさましや人の心を見ておそやまめ  
 信濃ある淺間が嶽は立つけむりをちこち人の見やはと

がめぬ

業平

いたづらに立やあさまの夕けむり里とひかぬる遠近の

山 雅 經

碓氷峠

追分より中仙道を行くこと、三里餘にして、碓氷峠に至る、昔日本武尊蝦夷征伐、十七年前の歸路、東を望みて、吾孀者耶

とて、妃弟橘媛を悲しむ慕ひ玉ひし所にして、其後、新田義宗と足利尊氏と戦ひし所あり、昔しは道路峻険にして、通行容易からざりしが、其後、屢改修し、今又トンネルを穿ちて、アプト式の鐵道を通じたれば、困難の昔の夢とされり、古道の巔は、熊野神社あり、巔を下りて向側は、古關の址あり、其邊楓樹多く、晩秋の候に至れば、全山紅錦を纏ひ、風景絶佳なり、又麓ある輕井澤は、夏の頃も氣候清冷なれば、内外人の避暑に来るもの多し、

山の名はうそひといへ、といくらしほそめて色こき峯の紅葉は

うすひ山ゆきて見ぬまひろひこし紅葉の色よさとと知らるゝ

通 躬

岩村田 輕井澤より、中仙道を西行すること五里にして、岩村田町に至る、昔内藤氏、一万五千石の城市にして、人口五千、郡役所區裁判所あり、近傍は、足利氏の頃、此地方の豪族たりし、大井氏の居城の址あり、

望月牧 岩村田町より、中仙道を西行すること三里にして、望月村あり、此地方の原野を望月御牧と稱す、古昔信濃國は、著名なる牧馬の地にして、王朝の頃、總て十六の牧場あり、毎歳八十頭を貢せり、後鎌倉の頃、及びて、一層盛大とされり、望月の御

牧、就中名高くして、古歌多し、

あふさかの關の清水に影見えて今やひくらむ望月の駒

紀 貫 之

望月の駒よを遅く出つればたどるくぞ山は越えぬる

素性法師

吾妻よを今日逢坂の山こえて都より出る望月の駒

後京極攝政

南佐久郡

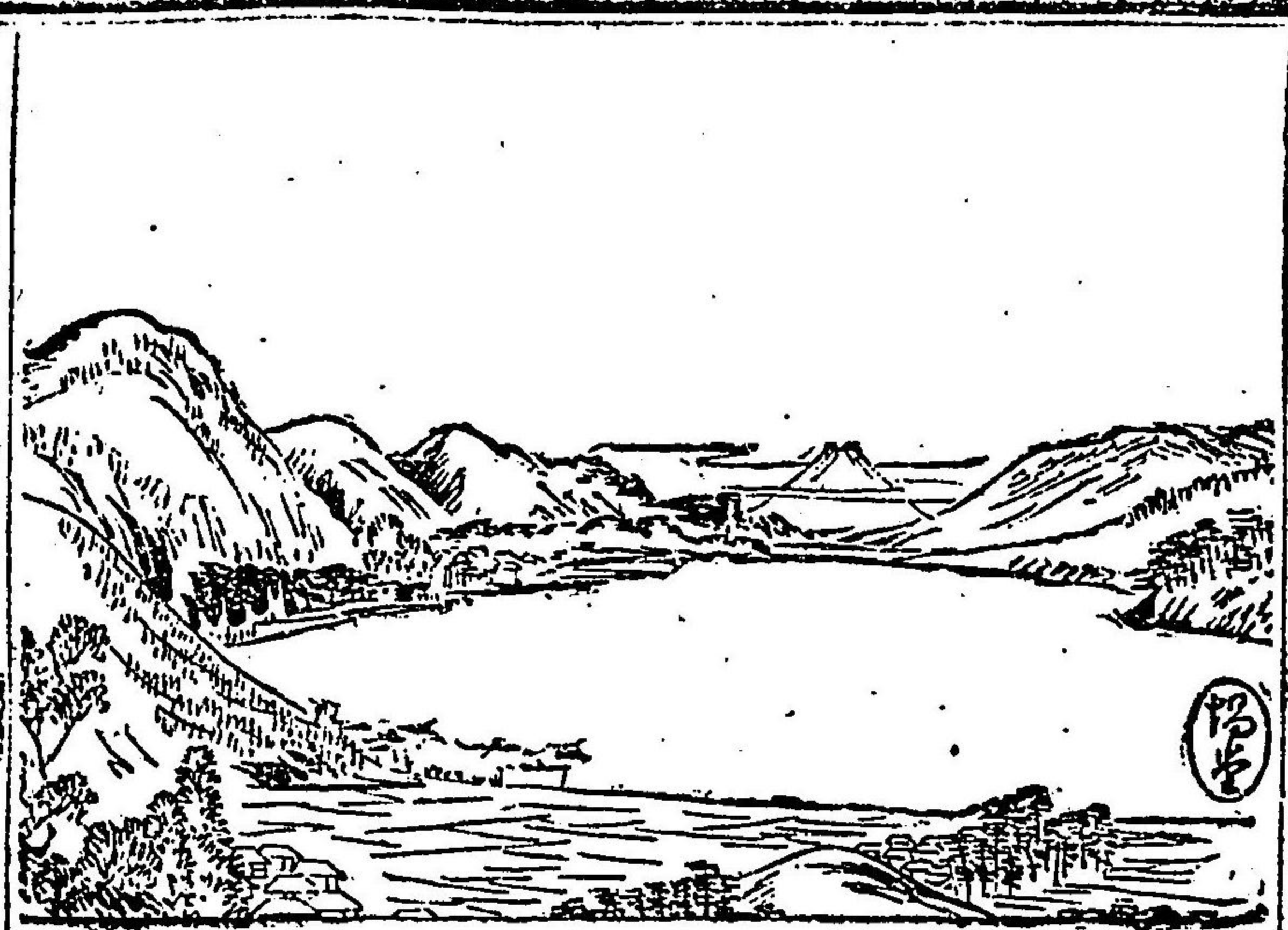
白田 岩村田より南二里、千曲川の西岸に、白田町あり、郡役所のある所あり、養魚の業盛なり、此地より上を、川上と稱し、蕎麥の名あり、

田ノ口 白田の東千曲川を渡りて、一里半にして、田ノ口村あり、又龍岡と稱せり、昔寶永元年三百年前大給氏參河の奥殿より移りて、之に居る、一万六千石地内三州の故を食みし所あり、南方山中に大日向村あり、磁鐵鑛、寒水石、石綿等を産す、松原湖 白田の南方數里、八ヶ嶽の東南北牧村に松原湖あり、風景に富む、湖畔に諏訪神社あり、

### (三) 諏訪地方

佐久小縣地方より、中仙道に沿ひて西行し、和田峠を越ゆれば、諏訪湖の邊に出づ、これを諏訪地方とあす、古昔、諏訪國と稱せしことあり、氣候寒冷にして、生糸、寒心太を産す、温泉多し、

### 諏訪郡



諏訪湖の風景

諏訪湖 諏訪湖ハ、一に鷲湖と稱し、周圍四里廿二丁あり、翠樹四面を圍みて、倒影を涵し、漁舟其中に棹して、風景絶佳あり、東南一帶山稍低き所、富士山を望む、  
おかのかる衣ヶ崎を來て見れば富士の上こぐあまの釣舟  
空 海  
冬に至れば、一面堅氷を結び、人馬通行す、

駒とめて諏訪のと渡る旅人の氷の橋の音やさやけき

家長

湖中、鯉、鮒、蜆、鰻、鮎、鰻等を生ず、漁業よりて生活するもの一千戸、湖邊、製糸の業盛にして、本邦第一と稱せらる。

上諏訪 湖の東岸に、上諏訪町あり、又、高島と稱し、古來諏訪氏三万二千石の城市にして、頗る繁盛の都會あり、城のもと湖中、築きしものありと雖も、今は、湖水を距ること數丁あり、其址の高島公園と稱し、眺望頗る佳あり、此邊に衣ヶ崎あり、人口九千餘にして、郡役所、區裁判所、實科中學校あり、長野を距ること二十四里、岩村田を距ること十四里、市中温泉多し。

諏訪神社 湖の南北相對して、上下諏訪神社あり、信濃第一の大社にして、官幣中社あり、上代の頃、大國主神の第二子、健御名方命、天孫より從順せざりし時、健甕槌神等之を攻め、遂に此地に逐ひ到りしかば、進退こゝに谷まり、再び背かじと誓ひて、こゝに住と玉ふ、即ち此命を祭りしかば、諏訪氏に、其後裔をぞと云ふ、上社は、上諏訪町の南二里、中洲村にあり、背に守矢嶽を負ふ、下社は、上諏訪町の北一里、下諏訪町にあり、春宮、秋宮の二祠あり、社殿宏壯美麗あり、六年一回、御柱祭を行ふ、近國よを群集するもの夥しく、混雜名狀す可らず。

(四) 伊那地方

諏訪湖の水、西に決して南流し、遠江國に走る、之を天龍川といふ、其兩岸は、即ち伊那地方あり、西に駒ヶ嶽の峻嶺あり、東に赤石、二百十の高山あり、概ね山谷にして、平地少からし、上下伊那郡に分つ、

上伊那郡

高遠 上諏訪町より南行して、杖突峠、或ハ松倉峠を越え、六里餘  
 として高遠町に達す、町の三峯川に臨み、徳川氏の時、内藤氏こ  
 へ居り、三万三千石を領せり、高遠城ハ、一ハ兜城と稱し、武田  
 信玄の將、馬場信房之を築く、天正十年三百年前武田氏の、織田氏の  
 爲に攻滅せらる、や、武田勝頼の弟、仁科信盛、織田信忠の軍を  
 此に防ぎ、奮戦して自殺せしところあり、後、保科、鳥居諸氏を經  
 て、内藤氏に至れり、今は城樓を毀ちて公園とす、内ハ藤原神  
 社あり、藩祖を祭る、長野を距ること二十九里、維新後、稍衰ふ、人  
 口五千あり、坂本天山は、此地の人にして、砲術を以て名あり、  
 五郎山の南にあり、仁科信盛を葬りしところあり、

鉾持神社ハ、西高遠町にあり、高燥にして、老樹茂れり、昔ハ社殿  
 を此地に移し、時、地中より神鉾を獲しを以て名くといふ、  
 鉾持棧道 高遠より三峯川に沿ひて下れば、鉾持棧道あり、長さ  
 四十三間、幅二間、碧流下は激し、斷崖上に峙ち、奇岩磊々として  
 風景頗る佳なり、

坂下 高遠より鉾持棧道を過ぎ、六道原、大官原を經て、三峯川に  
 沿ひて下ること二里半にして、天龍川の西岸、伊那村字坂下  
 達す、參州街道に當り、郡役所、區裁判所、簡易農學校あり、  
 赤穂 坂下の南方四里に、赤穂村あり、稍繁盛の市街あり、尙ほ南  
 二里に、飯島村あり、明治の初め、伊那縣を置きしところあり、

下伊那郡

飯田 坂下より天龍川の西方、參州街道を下ること十一里にして、飯田町に至る、信州最南の都會にして、氣候温暖もと堀氏一万七千石の城市あり、人口一万三千あり、尾張、美濃、參河、遠江、通する要路に當り、商業頗る繁盛あり、郡役所、區裁判所、尋常中學校、監獄署等あり、飯田城、一は長姫城といひ、市街の東南にあり、其址を公園となす、市中の某寺に、烈婦阿藤の墓あり、四時香華絶えず、又、有名なる儒者、太宰春臺は、此地に生れし人なり、今宮公園 飯田町を距ること北方十數丁に、今宮公園あり、風越山の麓にして、郊戸神社の境内に接し、廣潤にして、天然の雅致に富む、内は風越館といへる公會所あり、

元善光寺 飯田の東方、里許、座光寺村に、元善光寺あり、

園原 飯田の南、參州街道を行くこと三里にして、駒場驛あり、駒

場より右折して、谿谷中に入ること一里餘にして園原あり、往古の國道に當る、古へは、美濃國より、神御坂の峻嶺を踰えて、伊那郡に出でたり、此坂は、昔日本武尊の經過せられし時、白鹿出でて、害をかし、かは、蒜を眼に擲ちて、之を殺されたりしところあり、後、元明天皇の和銅六年千八百八十一年前、新に岐蘇の路を開かれたりしも、其後かは久しく國道とされりといふ、園原の著名あるところにして、古歌多く、伏屋、葦木、木賊等を併せて詠せり、そのはらやふせやにおふるは、さゞのありとは見えて、あゝぬ君りか、

是 則

とくさかるそのはらやまの木のまよりの磨かれ出る秋のよのつき

仲 正

姿見の池、長者屋敷等と稱する古跡あり、

大河原 飯田の北數里より、天龍川を越え、小遊川に沿ひて、東南山中に入ること數里にして、大河原あり、昔南北朝の頃、信濃の宮、宗良親王の潜みて、足利氏を亡ぼすの計を運らされしところなり、親王此處に住み玉へる時の歌、

われを世にありやと問はゞ信濃なる伊那と答へよ嶺の松風

いはで思ふ谷の心もくるしきハ身を埋木と過す也けり

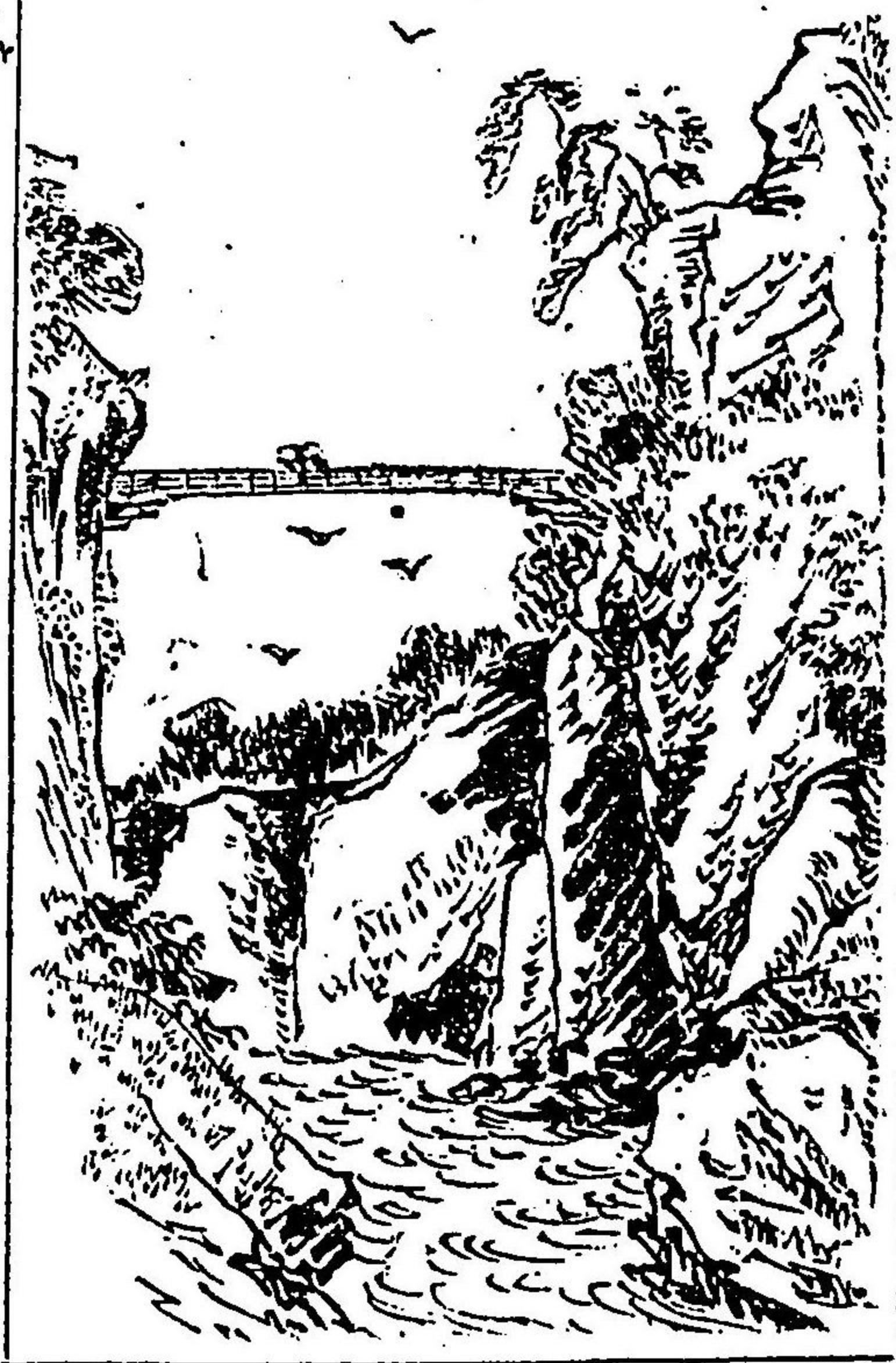
浪合 駒場の南三里、參州街道に浪合あり、宗良親王の子、尹良親王、下總より參河に赴かんとして、此處を過ぎける時、賊徒に圍み攻められ、自殺せられし處にして、其墓今存せり、

平谷 浪合の南數里に平谷あり、武田信玄の遺骸を葬りしところといふ、浪合、平谷、皆山中にして、道路險惡あり、

天龍峽

飯田の南方二里に天龍峽あり、天龍川の兩岸相迫り、絶壁高く聳え、奔流岩に激し、翠松鬱々として、長橋空に懸る、風景非凡あり、橋名を姑射といふ

姑射橋



天龍峽の圖

姑射橋上來、地僻身自靜、何必方外尋、人間有仙境、日下部鳴鶴

(五) 木曾地方

飯田より西行し、山を踰えて進めば、八里餘にして、木曾川の畔、中仙道、妻籠驛に出づ。此川の兩岸を木曾地方と云す。流は沿ひて下れば、即ち美濃の國あり。西は御嶽あり、東は駒ヶ嶽、風越山あり。木曾の山林は、本邦第一の大林にして、現今帝室御料林たり。沿岸十數里に亘り、良材多し。古へは、五木停止法と稱し、檜、樺、榎、杉、松、柏、みたり。伐採することを禁じたり。又、馬を産す。木曾駒の名あり。此地方を西筑摩郡といふ。古へ美濃に屬せり。

西筑摩郡

湯舟澤 妻籠驛の南二里、馬籠驛より山中に入ること一里余



小野の瀧の圖

して、湯舟澤あり。兼好法師の住みしところありといふ。兼好は、足利氏の頃の人にして、有名なる徒然草の著者あり。思ひたつ木曾の麻衣、淺くのみ染て止べき袖の色か。

兼好

小野の瀧

妻籠驛より、木曾川の東岸に沿ひて、中仙道を北行すること八里にして、路傍に小野の瀧あり。高さ六七丈。



つま木こる小野の名しるき瀧かれや山かすかある中よ  
音して

寢覺床 小野の瀧を去りて北行すること數丁よして上松驛の

南に寢覺牀あり巨巖雪の如く白く千狀萬態をかし木曾川深  
く其間を穿ちて深碧を湛ゆ風景絶佳あり屏風岩烏帽子岩獅  
子岩浦島太郎釣舟岩等の名あり臨川寺の庭より之を俯瞰す  
べし昔し三歸翁といふもの此處よて魚を釣りて樂みしを世  
の人浦島太郎といひしとかや

たひ枕かぞ寐ものうき夜の夢の絲さめよかひる松風の  
音

谷川の音よは夢も結んじを寢覺の牀とたれ名付けむ

鳥丸光榮  
近衛家淵

木曾の棧橋 上松の北一里半懸崖聳えて道絶えたるところに

棧道あり下は碧流を臨み風景佳かり昔は木橋よして頗る危  
嶮かりしが徳川の初め尾張侯有司よ命じて石を疊みて土を  
敷かしむ長さ五十六間幅三間四尺ありき後屢々改築して今  
の安全の大路となれり

わけくらす木曾のかけはしたえくよ行末深き峯の白  
雲

あやふさひ名のと残りて今更よ渡るよ易き木曾のかけ  
はし

後京極攝政  
讀人不知

福島 上松より北二里半よして福島町あり昔木曾義仲の幼時

中原兼遠によりしところにして其子孫木曾氏と稱して世々

居住せしところかり、徳川氏の初め、木曾氏斷絶し、其老臣山村氏之より居り、七千五百石を領して、尾張侯に屬し、命せられて關門を守る、今其址あり、市街の川の兩岸に跨り、人口五千、郡役所、區裁判所等あり、義仲の墓、及び木曾義康の據りし古城あり、御嶽、御嶽の飛驒の界に聳え、高さ九千八百四十一尺、福島町より溪流に沿ひて上ること九里餘にして、頂上は達す、飛驒に向へる處は、懸崖にして、瓦斯を吐く、頂上の四時雪あり、御嶽神社を祭る、四望すれば、淺間山、八ヶ嶽、駒ヶ嶽、富士山、井の飛驒、越中の諸山、皆眼中に入る、夏季登山するもの多し、

宮の越、福島より北行すること一里半にして、宮の越驛あり、東端は木曾義仲の城址あり、對岸に、徳音寺あり、木曾氏の遺物を藏す、

鳥居嶽、宮の越より、おほ北に行くこと二里にして、鳥居嶽あり、御嶽神社の遙拜所ありて、鳥居を立つ、因て嶺の名とす、昔し、木曾義昌、武田氏の兵を逆へ、撃ちて、破をしところかり、駒ヶ嶽、上松より、東方山中に入るること、四里餘にして、駒ヶ嶽の頂は達す、高さ七千八百〇八尺、翠松、花崗岩の白色と、相映して、景色絶佳かり、三十六峯、八千溪の稱あり、頂に駒ヶ嶽神社を祭る、駒ヶ嶽夕照、横川秋月、風越晴嵐、棧道朝霞、小野瀑布、寢覺夜雨、御嶽暮雪、徳音寺晚鐘を、木曾八景と稱す、

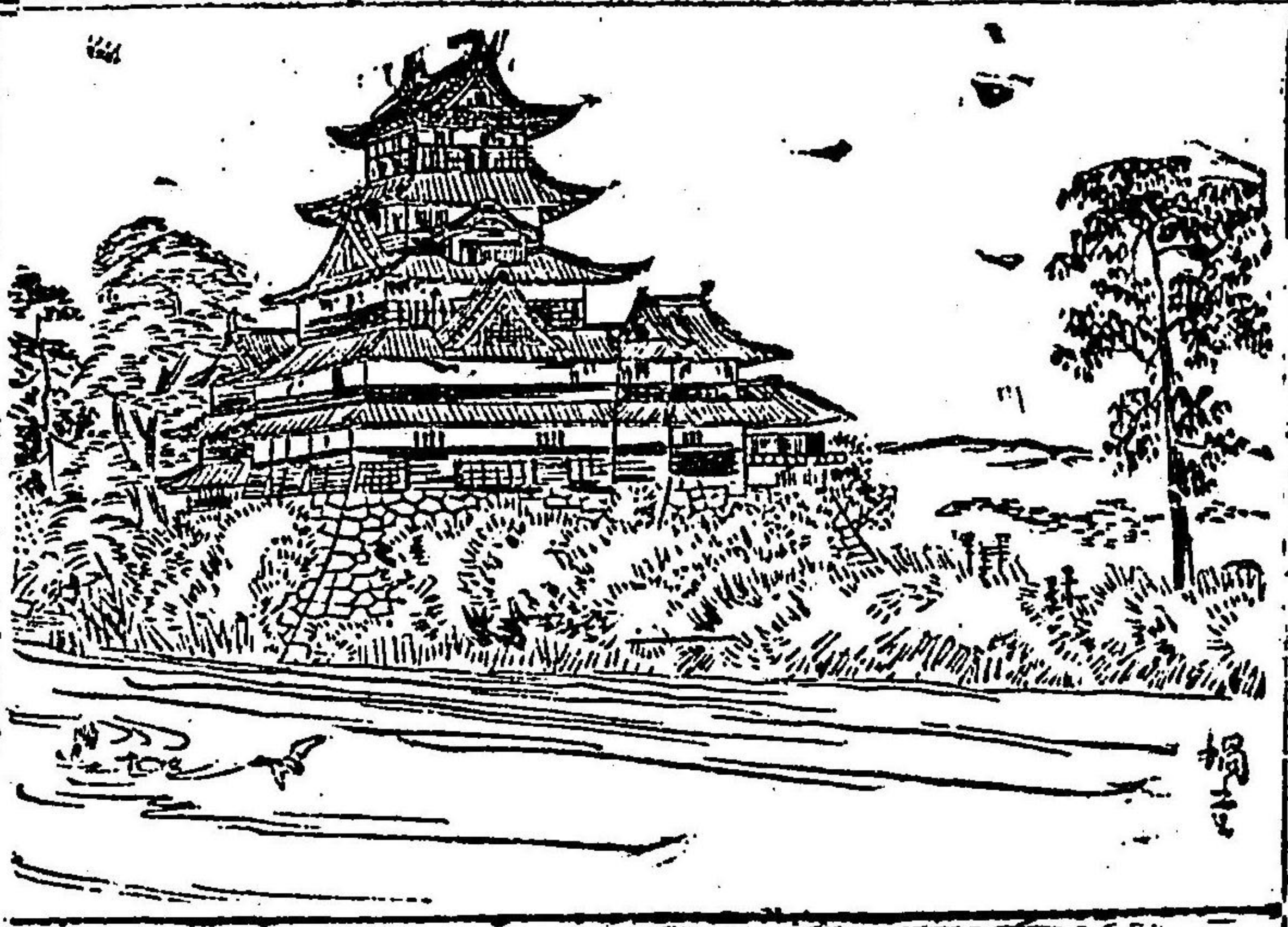
(六) 松本地方

木曾地方より、鳥居嶽を越えて北行すれば、松本地方に出づ、奈良井、梓、二川の合流して、犀川とあるところかり、西に乘鞍、鎗ヶ嶽、穂

高等の高山重疊して、飛驒、越中の界をなし、東へ鹽尻峠、保福寺峠、猿馬場峠等を経て、諏訪、小縣、更級、上水内の四郡に入るべし、東筑摩、南北安曇の三郡に分ち、河中島地方は伯仲せる平野あり、

東筑摩郡

松本 鳥居嶺より、奈良井川に沿ひて下ると四里にして、櫻澤あり、東西筑摩の界とあす、又行くこと五里半にして、松本町は遠く、古への國府のあましどころにして、初め深志と稱す、鎌倉の頃より、小笠原氏世々之に居る、松本城は、戰國の時永正元年前三年小笠原の族、島立右近の築きしところにして、小笠原氏敗れて後、武田氏に屬し、其後暫く上杉氏に屬せしが、復ひ小笠原氏の有とあり、徳川氏の時に至り、石川、水野諸氏の交迭を経て、享



松本城の圖

保年間十一年前七戸田氏之に移り、六万石を食むに至り、今、尙ほ、天主閣を存し、古への名残を留めたり、明治の始め、筑摩縣を置きしが、後、廢れて長野縣に合せ、郡役所、區裁判所、尋常中學校、監獄署、稅務管理局、第十五聯隊兵營、葉煙草取扱所等あり、女鳥羽川、市街を貫流し、人口二万九千餘あり、信州第二の都會あり、市街の

西北に城山シロヤマ偕樂園あり古への蟻ヶ崎の城址にして風景佳きを長野を距ること十六里上田を距ること十二里ある長沼宗敬は此地の人にして徳川氏の初の頃軍學を以て一流を起し長沼流といひ一時天下を風靡せり

淺間山邊の温泉 松本の東に淺間山邊の二温泉あり淺間へ古へ犬飼の御湯と稱せしものあり山邊へ古へ東間の御湯と稱せり又白米の出湯とも云ふ

わさかへりもえてを思ふうき人は東間のみゆか富士のけぶりか

殷富門院

又山邊村に桐原の牧あり佐久の望月とも其名著はる逢坂のせきの岩角ふみからし山たち出る桐原の駒

太宰大貳高遠

桔梗原 松本町の南方の原野を桔梗ヶ原といふ武田小笠原二氏の古戰場あり

ものゝふのくさむすかばねとしふりて秋風寒し桔梗ヶ

原

加藤宇摩伎

牛伏寺 松本より南三里にして郷原驛あり郷原より東一里許片岡村に金峯山牛伏寺あり至徳二年五百年前源豊重の草創に係り現在の堂宇に金堂釋迦堂牛堂二王門等あり金堂は十一面觀世音を安ず厄除觀世音と稱するものこれあり唐版の般若經を藏す傳へ云ふ古へ赤黒の二牛に經を駄して來りしは伏して動かざりしかば此處に一堂を建てたりと

三清地 松本より犀川に沿ひて下ること五六里生坂村に三清地の奇景あり犀川の兩岸相迫り絶壁高く聳え碧水縵く廻る

紅葉の候、舟に棹して、此間を下れば、其快誠は喩ふ可からず、松本より更級郡三水に至るまで、十四里の間、舟運の便あり。

南安曇郡

乗鞍嶽 松本より西、梓川に沿ひ、飛驒を通ずる野麥街道を行くこと、凡十里にして、乗鞍嶽九千百〇九尺の麓に達す、絶頂に舊火口あり、道路は甚だ峻かりと雖も、夏季登山するもの妙からず、此山雷鳥多し。

有明山 南北安曇の境に、有明山あり、信濃富士の名あり、登山するもの多し。

夏深き岑の松か枝風こえて月かけす、し有明の山

慈鎮和尚

白骨中房の温泉 白骨温泉は、梓川の上流、乗鞍嶽の麓にあて、中房の温泉に、有明山の麓にあり、古へ、坂上田村麿、中房山の凶賊を討滅せしことありしをいふ。

豊科 松本より越後に通ずる、絲魚川街道を北行すること三里にして、豊科村あり、郡役所のある所あり、南安曇地方の秋蠶種の産地あり

北安曇郡

大町 豊科より、絲魚川街道を北行すること、六里餘にして、大町に至る、大町は戦國の頃まで、仁科氏の世々居住せし所にして、其祖を醍醐天皇の皇子、若宮親王とす、今、郡役所區裁判所あり、商業盛なり。

大澤寺 大町の西北一里半許、平村に神龍山大澤寺あり、坂上田村麿の創建せし所あり、古への堂宇壯觀を極めたりしも、近時稍衰ふ、されど風致深遠にして、又、一個の仙境あり、

名よしおふ法の契も大澤よりをへたて年をふる寺

三湖 大町の北一里にして、周回二里許の木崎湖あり、其西岸に仁科氏の古城の跡あり、其北に周回半里余の中綱、二里余の青木の二湖、順次連る、四山の風光明媚あり、

小谷の温泉 大町より北行すること十三里許にして、小谷の温泉あり、近傍に尾丸、鬚切の二瀑ありて一の勝地あり、此地方に、

姫川の流域にして、一區劃をせり、姫川の末に、越後を流入す、

登波離橋 大町の南二里半にして、池田町村あり、大町に次ける市街あり、池田より東方に入ること一里半にして、登波離橋あり、

り、山腹岩石突兀として、歩み能はざる所、架す、長さ三十八間、幅三間あり、斷崖深さ幾切あるを知らず、下瞰すれば、股爲め、震んとす、又渡、蟻落橋とも呼ぶ、

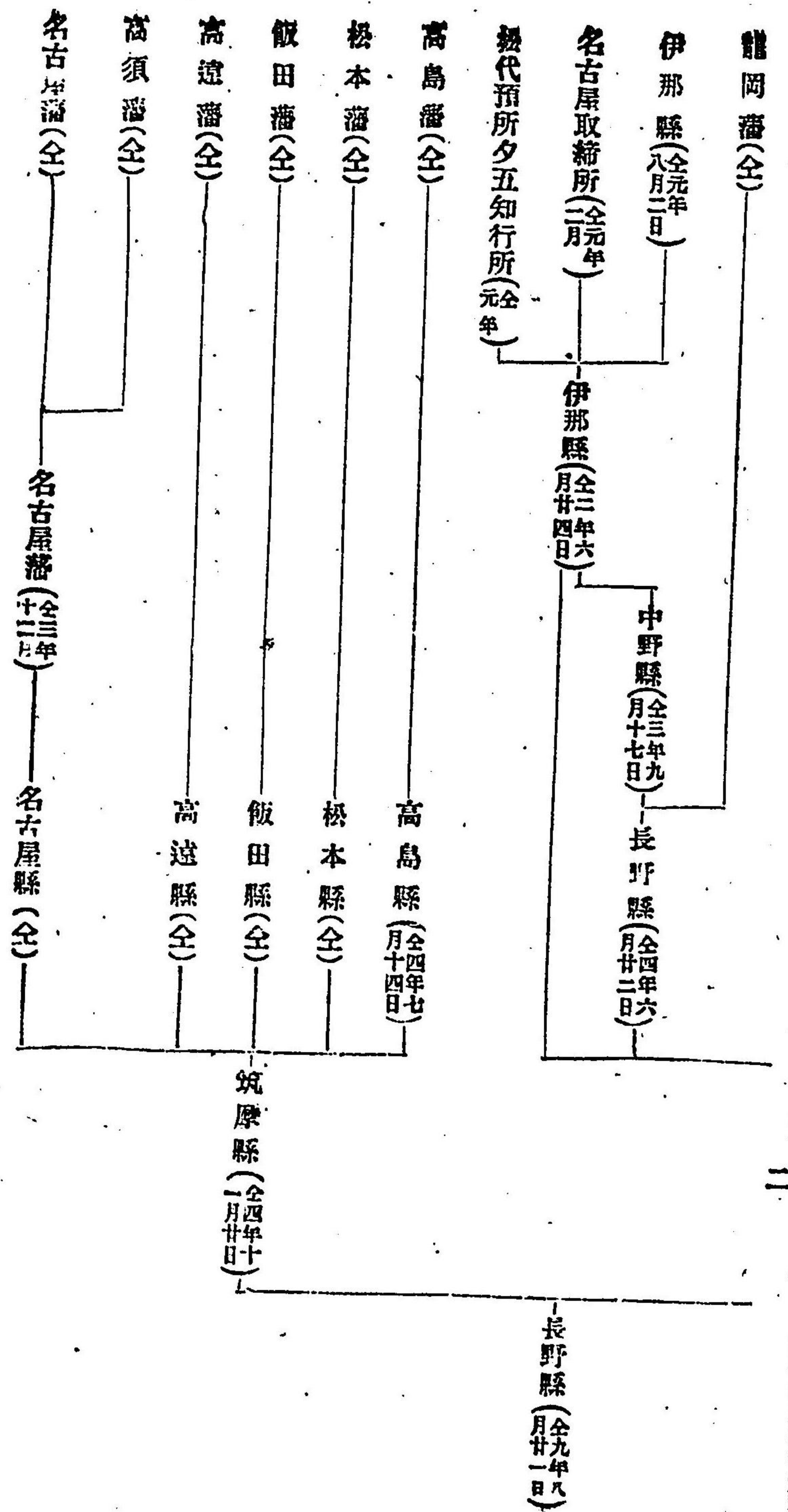
大町より、大町街道を東北行して、十二里半を経、復び長野市に至るべし、余輩のこゝに信濃名勝の巡遊を終へたれば、暫く諸子と袂別せん、

信濃名勝地誌終

信濃名勝地誌附錄

一、沿革表

碓代藩 <small>(明治元年)</small>	碓代縣 <small>(全四年七月十四日)</small>
飯山藩 <small>(全)</small>	飯山縣 <small>(全)</small>
小諸藩 <small>(全)</small>	小諸縣 <small>(全)</small>
上田藩 <small>(全)</small>	上田藩 <small>(全)</small>
岩村田藩 <small>(全)</small>	岩村田藩 <small>(全)</small>
須坂藩 <small>(全)</small>	須坂藩 <small>(全)</small>
椎谷藩 <small>(全)</small>	椎谷縣 <small>(全)</small>
	長野縣 <small>(全四年十一月廿日)</small>



二、市郡一覽表

人口(明治三十一年一月現在)

市郡名	面積町數	村數	人口	市郡役所位置	市郡別有租地	全上地價金
長野市	七六〇三町反	〇	三六、四〇八	長野市	五三九、〇	二二八、三三六
上水内郡	四八五	〇	一一四、三二八	長野市	四四、二〇八、三三三、五四七、三三八	
下水内郡	一四	一	三二、五七六	飯山町	一〇、一八四、五	九四四、五六七
下高井郡	五三	一	五三、八二三	中野町	二四、三〇二、一一、八〇〇、〇三九	
上高井郡	二〇	一	四五、九〇九	須坂町	二六、二〇五、〇一、四九六、九〇六	
埴科郡	九	二	五〇、三二九	屋代町	一〇、七八五、二一、三六二、三七九	
更級郡	一六	一	六二、二六〇	篠原町	一九、六八三、〇二、七〇七、二四五	
小縣郡	五四	三	一一九、〇〇一	上田町	二八、二四一、一四、一四七、〇一八	
北佐久郡	三八	二	七〇、七六〇	岩村田町	三三、四四〇、二二、六七八、六六九	
南佐久郡	六一	二	五二、八五三	白田町	三五、一三八、四一、七五九、九五八	



備考	官有地	民有地	有租地	免租地
諏訪郡	四二	八四、一二五	二四、二四	四一、二六一、五二、五六六、八八一
上伊那郡	七九	一〇七、〇四〇	三一、三一	七〇、四四七、二二三、三八二、七七二
下伊那郡	一二三	一二一、三八四	四三、〇三	九〇、八八九、四三、九二、五三三
西筑摩郡	一一四	四一、七五四	三三、〇二	四七、七一八、七五〇九、三三三
東筑摩郡	五一	一四八、〇九七	一七、〇六	六二、四六二、一四、四〇八、一七八
南安曇郡	四九	四六、六五七	二〇、一四	一九、一九〇、七二、一九五、三九八
北安曇郡	六七	五〇、六三六	一三、二〇	四〇、七〇四、七一、三八八、九九四
合計	八三九	二、三三七、九三九	五九五、四〇一	二、二五、四七四
備考	一、三四八、六四八、三	六〇二、六四七、八	五九五、四〇一、二	一三、〇二二、一
耕地	一五九、〇三四、二	不耕地		
		四三六、三六五、六		

三、山嶽表

名稱	位置	海面上ノ高さ	名稱	位置	海面上ノ高さ
赤石嶽	下伊那	二〇、二二四尺	金峯山	南佐久	八、五四九尺
御嶽	西筑摩	九、八四一	立科山	北佐久諏訪	八、三四九
仙丈嶽	上伊那	九、七六八	淺間嶽	北佐久	八、二三〇
逆花山	北安曇	九、六八三	甲武信嶽	南佐久	八、一一〇
赤嶽	南佐久諏訪	九、六七六	高妻山	上水内	八、〇三六
荒川嶽	上伊那	九、六〇〇	駒ヶ嶽	上伊那西筑摩	七、八〇八
乗鞍ヶ嶽	南安曇	九、一〇九	三笠山	西筑摩	七、五八〇
前嶽	上伊那	九、一〇八	鳥甲山	下高井	七、二六〇
四阿山	小縣上高井	八、九〇七	笠無山	諏訪	七、〇九八
箱ヶ嶽	南安曇	八、五五〇	笠ヶ嶽	上高井下高井	七、〇八八

白根山	上高井	七、〇八五	守屋山	諏訪上伊那	六、二四〇
十文字嶽	南佐久	七、〇五五	飯繩山	上水内	六、二三四
黒姫山	上水内	六、九一四	鷲ヶ峯	諏訪	六、二〇四
赤石山	下高井	六、六八二	虫倉山	上水内	六、一五一
河名	水源地名	流末地名	管内經過		
千曲川	甲武信嶽	越新後國	港	五四里	
犀川	駒ヶ嶽	遠掛江國	川	三三	
天龍川	諏訪湖	伊勢國	港	三〇	
木曾川	鉢盛山	越桑後國	港	二三	
姫川	北安曇郡神城村	越絲後國	川	九	
關川	戸隠裏山	越直後國	津	三	

四、河川表

官幣社	國幣社	縣社	郷社	村社	無格社	合計
四	一	九	九一	一、八七八	七、三三五	九、三二八

五、神社表

天台宗	眞言宗	淨土宗	臨濟宗	曹洞宗	黃蘗宗	眞宗	日蓮宗	時宗
一〇〇	二四二	二三四	一〇三	五五八	一五	二三五	三九	二
天台淨土聯合計	三、五二一							

六、寺院表

單純泉	酸性泉	炭酸泉	鹽類泉	硫黃泉	合計
温 八七	一	六	四四	三六	一七四
冷 五六	六	六	二四	二二	一一四
計 一四三	七	二	六八	五八	二八八

七、鑛泉表

八、農産表

多額産地ハ著名ナルモノ、那名ヲ舉ゲ其順序ニ從フ以下之ニ做フ

名稱	產額	多額產地
粳米	九一九、一七一	下伊那、上伊那、東筑摩
糯米	一一一、四七一	上伊那、上水內、東筑摩、小縣
陸稻	四九八	東筑摩、下伊那
大麥	三〇九、〇八七	下伊那、上水內、東筑摩、更級
小麥	一七二、一一八	上水內、東筑摩、更級
裸麥	一、八六〇	下伊那
大豆	一六八、一八八	上水內、東筑摩、上伊那
小豆	一九、七九八	上水內、東筑摩
粟	六六、六五五	東筑摩、上伊那
稗	一一〇、〇一四	上伊那
大麻	一〇八、三一	上水內、北安曇
苧麻	八、一六八	北安曇、更級、諏訪
藍葉	三九、五九六	上水內、上伊那
茶	六、四三九	下伊那、西筑摩
楮皮	四三四、〇一九	下高井、下伊那、上水內
黍	三、七二四	北佐久、下高井
蕎麥	五六、八九五	上水內
豌豆	七、八四四	上水內、下高井
花生	七	諏訪
蜀黍	三、三六〇	下伊那
玉蜀黍	五六、五五〇	西筑摩、下伊那、下高井
甘藷	四〇二、六二六	埴科、東筑摩
馬鈴薯	二、二一六、四九八	小縣、上水內
蘿蔔	一〇、四五五、六三三	下伊那、下高井
實綿	一八、一三七	更級、上水內、埴科
葉煙草	一二二、五九六	東筑摩、下伊那
蘭	三九、六一〇	下水內、南安曇
菜種	一〇、五三九	下高井、東筑摩、上高井、更級
蜂蜜	二、四七八	西筑摩、北安曇
漆汁	六、七九四	下伊那、上水內

九、蠶業生產表

名稱	產額	多額產地
繭	三二七、一一一	石
繭	內春一毛、二五三	玉繭
繭	夏七七、〇一二	肩繭
繭	秋六六、九四六	出殼繭
繭	四〇四、三〇〇	生絲
繭	七、九二二	玉絲
繭	一、四七一、九六八	廢斗絲
繭		廢絲生皮等
繭	二四四、一六五	石
繭	三三、八八九	上伊那、東筑摩、下伊那、小縣
繭	二二、七四三	東筑摩、小縣、下伊那
繭	一五、三一四	東筑摩、下伊那、小縣
繭	三三三、〇三九	小縣、東筑摩、埴科
繭	六、六五五	諏訪、東筑摩、上伊那
繭	一三、八五三	東筑摩
繭	六〇、七五三	埴科、上高井、小縣
繭		諏訪
繭		下伊那
繭		小縣、東筑摩、埴科

十、製造及工業產物表

名稱	產額	多額產地
絹織物	五四、四四一	反
絹織物	一七八、三八八	小縣、下伊那、上伊那、諏訪、下伊那、上伊那、小縣、諏訪
木綿織物	一〇五、〇五三	小縣、下伊那、上伊那、諏訪

其他織物	帶	紙	漆	墨	瓦	煉	刻	清	醬	菜	菓	元
三八、七八六	四、五一二	一五六、六二三 六八、九一三 三、九九二、四〇〇 (數別紙)	表器	二二一、六〇〇	六六、六一四、七五五	瓦	煙	草	酒	油	子	結
二五、五二三	四、七〇五	三九六、四二二	一〇四、七四九	一五、八六四	七三、〇七六	一、〇一五	二、八一一、二九五	二、二四、八一〇	一、五五、三八九	二、四九七	二、四〇六、八七二	二、四〇六、八七二
上伊那、下伊那	諏訪、小縣、上伊那、下伊那	下伊那、東筑摩	西筑摩、下伊那	下水内、南安曇、更級	東筑摩、上水内、小縣	上水内、東筑摩	東筑摩、下伊那、北安曇	東筑摩、上水内、下伊那	東筑摩、諏訪、上水内、小縣	東筑摩、上水内、上高井	小縣、上水内、東筑摩	下伊那

十一、物産輸出表

名	稱	數	量	價	格	主ナル輸出地
米	麻	七、六三三	石	一〇二、九七八	圓	北佐久、下水内、下高井、南佐久
製	油	七二、六四四	石	一三四、九五七		上水内、北安曇、更級
水	糸	七七五	石	二四、二五五		下高井
麻	酒	五七、三六〇	石	一四三、七〇〇		長野、更級、北安曇
清	糸	二、五三八	石	五七、三七〇		南佐久、下高井、北佐久
繭	絲	三、八二三	石	一六六、七一六		北佐久、南佐久、更級
生	糸	二六六、四七〇	石	一三、七九六、八〇〇		諏訪、上高井、埴科、上伊那
太	糸	四、四〇二	石	一三九、九八八		下高井、埴科、下伊那
玉	糸	五、四七九	石	一六五、四二五		更級、東筑摩、小縣
鬘	斗	六九	石	三一八		小縣
人	斗	四一、六五三	石	四四、一八七		北佐久、南佐久、小縣、上高井
塞	心	二二八、九九七	斤	一二三、七三三		諏訪

價格ハ二万円以上ノモノヲ舉グ  
此調査ハ明治三十年度ノモノナレバ先ノ二十九年  
度ノ物産表ニ對シテ少異アルヲ免レズ

絹	真	原	紙	傘	足	刻	蠶	馬	板	屑	櫛		
物	綿	卵	紙	袋	袋	草	種	糸	類	類	物		
五〇、六一三	二、九三八	四、八〇五、二三〇	七四三	六八、八一	五〇、〇〇〇	二二四、〇〇〇	三五、八九一	一、一三六、一六五	二二、九二一	二、五九五	二、〇三〇	六〇、八四三	二、一〇一
反	貫	枚	貫	束	本	圓	貫	枝	頭	頭	圓	圓	一
二六六、四四九	四四、〇二九	二〇、二三七	七四、一七五	三〇、〇〇〇	五九、九五五	五〇、〇五五	一、一一四、七八七	五八、四四九	六一、八九四	一八、九五三	三三四、七六七	四一、七九〇	
下伊那、小縣、更級	下伊那、東筑摩、小縣	小縣、東筑摩	下水内、東筑摩、上水内	下伊那	東筑摩、北佐久、下伊那、諏訪	東筑摩、下伊那、北佐久	小縣、東筑摩、埴科、以下各郡	上水内	西筑摩、南佐久、北安曇	西筑摩	諏訪、上高井、上伊那	西筑摩	

玉	出	下	燕	太	大	大	麥	小	材	漆	元	鎌	美	細
繭	穀	細	竹	物	豆	麥	稗	木	木	器	結	工	工	工
一、一九六	三、一四六	二四七、九五〇	五、五五〇	二八、〇二八	三、〇五四	一五、六四八	六五、四八四	一五、七一一	二四、二八三	六九、二五〇	二、四五〇、〇〇〇	三三六、九〇〇	二八、七〇〇	
石	石	石	圓	反	石	石	石	本	三	圓	圓	圓	圓	
三三二、八七〇	五五、三二九	二六、一八五	二六、〇九〇	二二、四二二	三〇、〇〇一	一三九、二七五	六八、五四〇	七一、九七五	一一九、七五三	六八、三三五	四〇四、二五〇	三五、九七七	一二六、四四〇	
東筑摩、上水内、小縣	小縣、下伊那、下高井	北佐久、長野、更級	西筑摩、諏訪	北佐久	諏訪、下伊那、北安曇	長野、上水内、更級	東筑摩、南安曇、上水内	下伊那、西筑摩、上伊那	下伊那、北佐久、下水内	西筑摩、諏訪、下伊那	下伊那	上水内、諏訪	東筑摩	

合計 一八、二九三、三九九圓

十二、物產輸入表 明治三十年十二月現在

名稱	數量	價格
米	二二三、九五八石	二、九三〇、七九五圓
大豆	二六、五三一	二一六、八二八
小麥	刻、卷品々	四五〇、一五九
草	數	三六七、五八八
茶類		二六一、八七〇
酒類		八一、〇九一
醬油		八九三、五八二
砂糖		六五三、一八三
食鹽		四二、四二九
菓子類		一一六、四二四
雞卵		一、九六六、三三五
魚類		七九、八〇九
牛馬類		六三、三三四
乾物		三、七七三、七〇六
繭絲及綿		九三七、五七三
合計		一八、二九三、三九九圓

名稱	數量	價格
織物類		四、三五三、三三一
紙品類		二六七、九六四
藥品類		一五九、〇一八
藍玉類		三〇八、〇三三
石油類		七〇五、七五七
燧燐、燐寸、炭類		一二七、三六〇
鐵器、其他金物		一七六、四八八
漆器、陶磁器		二三五、五六八
書籍、時計		一〇六、一八一
木材		一二三、〇九四
肥料		四九一、四一六
蠶表、蠶蠟、蠶下駄緒		七七二、五四六
小間物、洋物		三三〇、二二五
古着、雜貨、厩馬		一八〇、四六四
合計		二一、二七二、〇三一圓

油、洋魚類等

信濃名勝地誌附錄終

187  
5

一頁終	地間	全別	全田	全日	全野	六、北	十三、	十七、	十八、	十九、	二十、	二十一、	二十二、	二十三、	二十四、
名勝誌	川關	別所	田澤	日野	野澤	野岸	北野	北野	長野	長野	各街	至街	異街	延街	米子
正	名勝地誌	川關	田澤	日野	野澤	野岸	北野	北野	長野	長野	各街	至街	異街	延街	米子
頁行	二十四、六	二十五、三	廿五、三	二十八、七	三十、一	三十一、二	三十一、三	三十一、七	三十二、二	三十二、三	三十三、一	三十三、二	三十三、七	三十六、四	四十五、二
誤	清水	今川	元山	象山	茶山	姨山	芒山	稍山	當山	炊山	河山	小諸	小諸	懷古	從順
正	清水	今川	元山	象山	茶山	姨山	芒山	稍山	當山	炊山	河山	小諸	小諸	懷古	從順
頁行	四十、六	四十六、三	四十七、三	四十八、二	四十八、八	四十九、五	五十一、七	五十二、七	五十七、三	五十八、三	六十四、一	六十四、九	六十五、二	六十五、終	
誤	至	杖	鉢	至	風	元	鬱	一字下	逆	享	平	切	腹	別	分
正	至	杖	鉢	至	風	元	鬱	一字下	逆	享	平	切	腹	別	分
	至	杖	鉢	至	風	元	鬱	一字下	逆	享	平	切	腹	別	分
	至	杖	鉢	至	風	元	鬱	一字下	逆	享	平	切	腹	別	分

正誤表

明治三十一年一月二十九日印刷  
 明治三十一年二月四日發行  
 明治三十二年二月八日增補再版印刷  
 明治三十二年二月十九日增補再版發行

松陽堂發行證

編輯者 山口勇雄

印刷者兼發行所 池村鶴吉

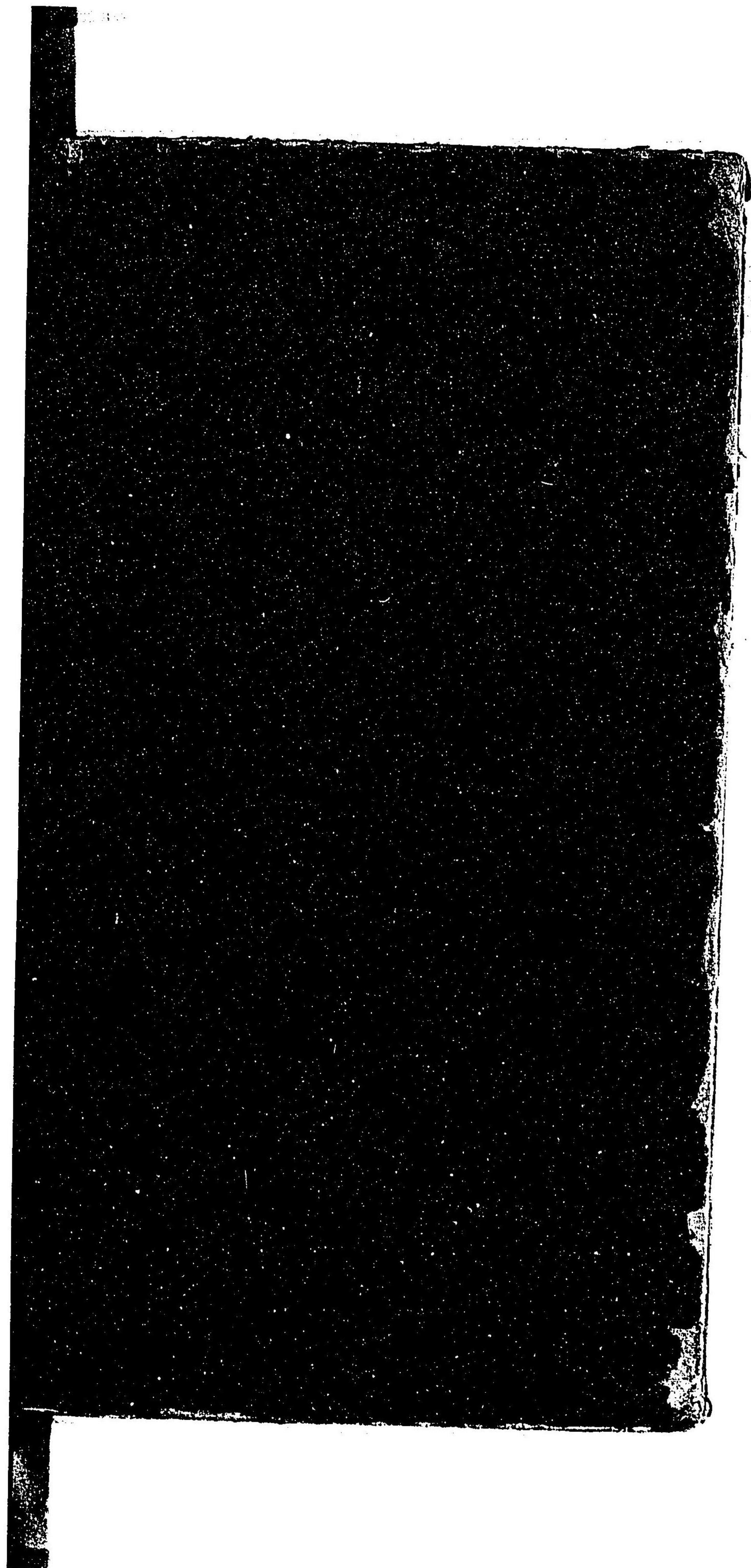
發行所 松陽堂

東京市日本橋區濱町二丁目三番地  
 東京市日本橋區濱町二丁目三番地

賣捌所 信濃全國各書店

187  
5





187

5

024924-000-3

187-5

信濃名勝地誌

山口 勇雄/編

M32

ADC-2218

